

調查資料
第十九輯

中華民國電氣事業

第三卷

滿洲電業株式會社調查課編

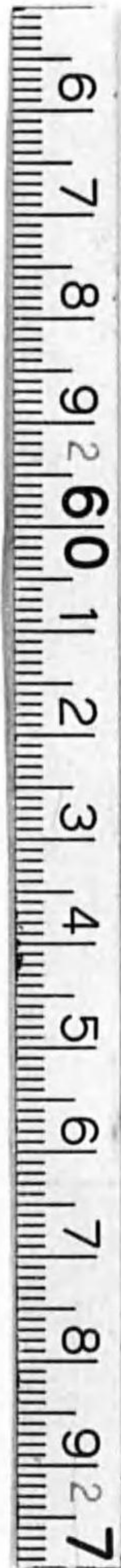
14.5

415

14.5-415



1200501217065



始



調查資料第十九輯
昭和十年八月

中華民國電氣事業

第三卷

福建省·廣東省·廣西省

滿洲電業株式會社調查課
(滿洲電業股份有限公司調查課)

中華民國電氣事業

(第三卷)

發行所寄贈本

目次

第一編	總論	既刊第一卷
第二編	江蘇省電氣事業	同 右
第三編	浙江省電氣事業	同 右
第四編	河北省電氣事業	既刊第二卷
第五編	山東省電氣事業	同 右
第六編	福建省電氣事業
福建省主要電氣事業所在地圖		
梗概		



第一章	總說	二
第二章	事業者數
	資本金
	發電容量
	水力電氣
	發電量
	普及率
目次	各說	六

目次

第一節 福州 福州電燈公司 六

第二節 福州 福建造紙股份有限公司 九

第三節 連江 琯江電燈廠 一

第四節 福清 福清電燈公司 一

第五節 莆田 莆田電燈公司 二

第六節 廈門 廈門電燈電力公司 二

第七節 鼓浪嶼 中華電氣公司 四

第八節 仙遊 仙遊電燈公司 五

第九節 永春 永春電燈公司 五

第一〇節 晉江 泉州電燈電力公司 六

第一一節 安海 安海電燈公司 六

第一二節 長汀 汀州電燈公司 七

第一三節 上杭 福耀電燈公司 七

第一四節 龍溪 龍溪電燈公司 七

第一五節 龍溪 永成電燈公司 七

第一六節 龍溪 華泰鋸木電氣公司 七

目次

第一七節 南平 南平電燈公司 八

第一八節 永安 照明水力電燈公司 九

第一九節 沙縣 沙縣電燈公司 九

第二〇節 建甌 建甌電燈公司 〇

第二一節 建甌 南雅電燈公司 〇

第二二節 建甌 上洋電氣公司 〇

第二三節 浦城 浦城電燈公司 〇

第二四節 古田 古田電燈公司 一

第二五節 古田 水口電燈公司 一

第二六節 浮官 浮官電燈廠 一

第二七節 海登 海登電燈電力公司 一

第二八節 漳南 漳南電燈公司 一

第二九節 金門 金門電燈新股東公司 二

第三〇節 順昌 照明水電公司 二

第三一節 建陽 建陽電燈公司 二

第三二節 福安 福安電燈公司 二

第三三節 角 尼 角尾電燈公司.....二二

第三四節 馬 尼 海軍馬尼造船所.....二三

福建省電氣供給事業者一覽表.....二三

福建省自家用發電所一覽表.....二五

第七編 廣東省電氣事業.....二七

廣東省主要電氣事業所在地圖

梗概

第一章 總說.....二八

第二章 供給事業者各說.....三一

第一節 廣 東 廣東市電力廠.....三一

第二節 香 港 香港電燈公司.....三八

第三節 香 港 香港電車公司.....四三

第四節 九 龍 中國電力公司.....四六

第五節 澳 門 澳門電燈公司.....五〇

第六節 番 禺 福利電燈公司.....五三

第七節 番 禺 本善電燈公司.....五三

第八節 番 禺 天豐電燈公司.....五四

第九節 南 海 普光電燈公司.....五五

第一〇節 南 海 光大電燈公司.....五六

第一一節 順 德 光中電燈公司.....五六

第一二節 東 莞 莞城電燈公司.....五七

第一三節 東 莞 廣益電燈公司.....五七

第一四節 東 莞 利太電燈公司.....五八

第一五節 從 化 從化電燈公司.....五八

第一六節 臺 山 公益電燈公司.....五八

第一七節 臺 山 光昌電燈公司.....五九

第一八節 臺 山 普照電燈公司.....五九

第一九節 臺 山 永明電燈公司.....六〇

第二〇節 臺 山 大光電力公司.....六〇

第二一節 中 山 迪光安記電力燈所.....六〇

第二二節 新 會 新光電燈公司.....六一

第二三節	三水	耀南電燈公司	六一
第二四節	清遠	光遠電燈公司	六二
第二五節	高要	瑞光電燈公司	六二
第二六節	四會	振業電燈公司	六三
第二七節	開平	發明電燈公司	六三
第二八節	開平	長沙電燈公司	六三
第二九節	開平	光遠電燈公司	六四
第三〇節	羅定	耀羅電燈公司	六四
第三一節	鬱南	都城電燈公司	六四
第三二節	曲江	韶州電燈公司	六四
第三三節	惠陽	惠東電燈公司	六五
第三四節	海豐	同益電燈公司	六五
第三五節	龍州	龍州電燈公司	六五
第三六節	潮安	昌明電燈公司	六六
第三七節	潮安	光華電燈公司	六六
第三八節	汕頭	開明電燈公司	六七

第三九節	梅縣	嘉應電燈公司	六八
第四〇節	梅縣	永光電燈公司	六八
第四一節	興寧	興光電燈公司	六九
第四二節	陽江	福陽電燈公司	六九
第四三節	瓊山	啓明電燈公司	六九
第四四節	文昌	文昌電燈公司	七〇
第四五節	增城	通明電燈公司	七〇
第四六節	寶安	寶光電燈公司	七〇
第四七節	九江	九江墟電燈公司	七一
第四八節	潮陽	光利電燈公司	七一
第四九節	北海	廉北電燈公司	七一
第五〇節	太寧	太郎電燈公司	七一
第五一節	肇慶	日華電燈公司	七二
第五二節	瓊州	海口電燈公司	七二
第五三節	澄海	光華電燈公司	七二
第五四節	香山	石岐電燈公司	七三

第五五節 香山 興業電燈公司.....七三

第五六節 員岡 員岡電燈公司.....七三

第三章 休業中供給事業者各說.....七四

第一節 番禺 宏光電燈公司.....七四

第二節 南海 利安電燈公司.....七四

第三節 順德 梁江電氣公司.....七四

第四節 臺山 同聲電燈公司.....七四

第五節 中山 大光電力公司.....七四

第六節 中山 橫圃電燈公司.....七五

第七節 三水 耀華電燈公司.....七五

第八節 南雄 光亞電燈公司.....七五

第九節 英德 愛群電燈公司.....七五

第一〇節 汕頭 光利電燈公司.....七五

第一一節 揭陽 普益電燈公司.....七六

第一二節 梅縣 光耀電燈公司.....七六

第一三節 茂名 高州電燈公司.....七六

第一四節 崖縣 崖州電燈公司.....七六

第一五節 欽縣 開明電燈公司.....七六

第四章 自家用發電所各說.....七七

第一節 廣州 廣九鐵路機車廠.....七七

第二節 廣州 廣州西村士敏土廠.....七七

第三節 廣州 廣州水泥廠.....七七

第四節 汕頭 潮汕鐵路電燈廠.....七八

第五節 香港 太古糖廠.....七八

第六節 香港 中華火車糖局.....七九

第七節 新會 江門製紙股份有限公司.....七九

廣東省電氣供給事業者一覽表.....八一

廣東省休業中電氣供給事業者一覽表.....八五

廣東省自家用發電所一覽表.....八六

第八編 廣西省電氣事業.....八七

廣西省電氣事業所在地圖

梗概

第一章 總說

事業者數 資本金 發電容量 發電量 普及率

八八

第二章 各說

八九

第一節 梧州 廣西電力廠

八九

第二節 柳州 柳州電燈廠

九二

第三節 平樂 平樂電力公司

九三

第四節 桂林 桂林電燈公司

九三

第五節 北流 晉光電力公司

九四

第六節 鬱林 振華電力公司

九四

第七節 南寧 南寧電燈公司

九四

第八節 龍州 龍州電燈公司

九五

第九節 百色 日光電燈公司

九五

第一〇節 大平 大平電燈公司

九六

第一一節 宜山 宜山煤礦公司

九六

廣西省電氣事業者一覽表

九八

凡例

145-415

一 本書は本課に於て調査蒐集せるものを印刷に付したるものなり。

二 本書は既刊第一卷第二卷の續編なるも出来る丈け最近の調査資料により記述せる爲其間

數字の差異あり。

三 資料の正確を期したるも調査不充分の爲尙缺陷あれど取敢ず上稿し後日改版訂正を期す。

四 本書は當課員藤井忠一、中上辰一をして擔任せしめたり。

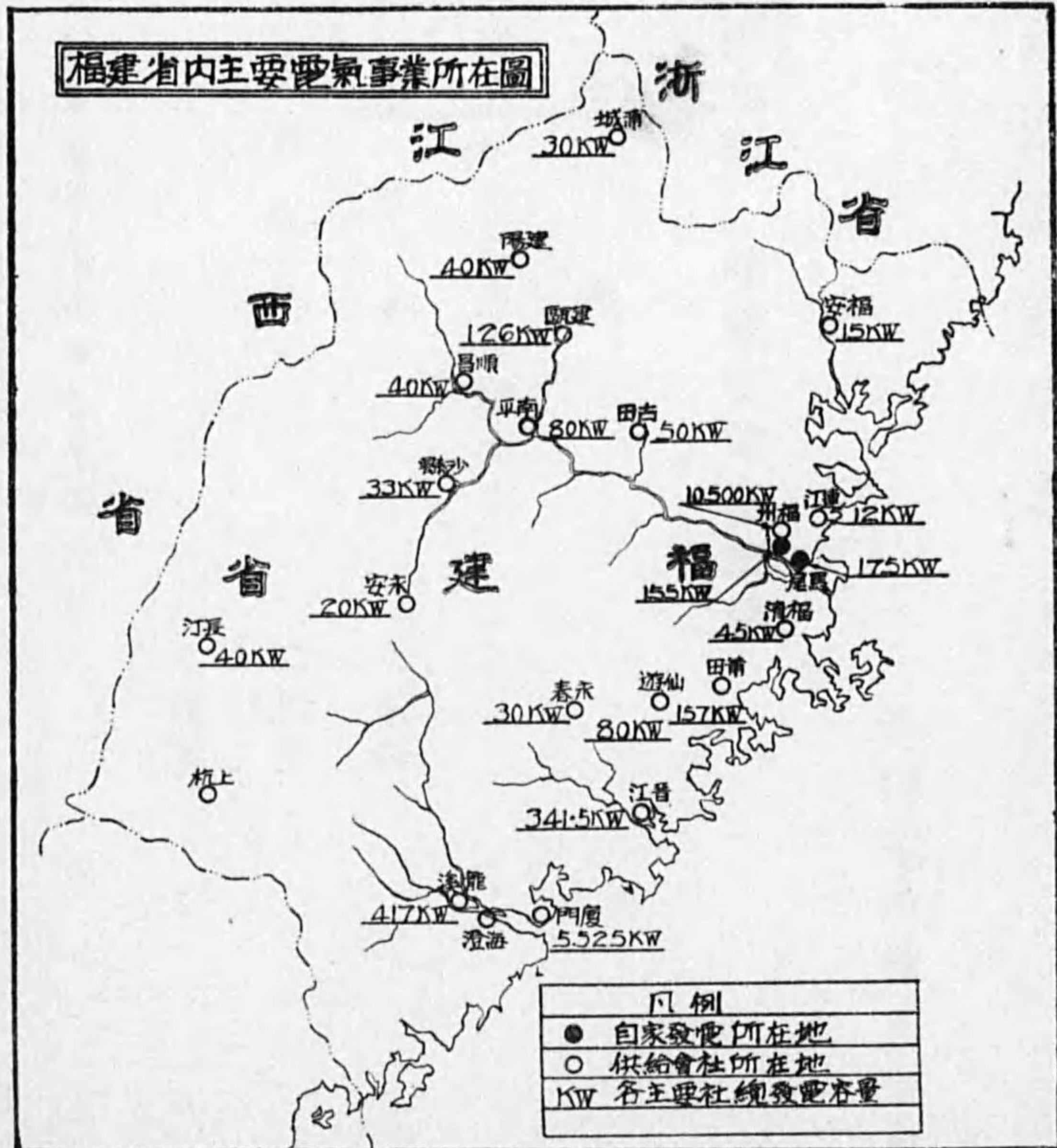
昭和十年八月

滿洲電業株式會社調査課

福建省電氣事業

年號早見表

年 號			年 號		
日 本	中 國	西 洋	日 本	中 國	西 洋
明治 17	光緒 10	西曆 1884	大正 1	民國 1	1912
18	11	1885	2	2	1913
19	12	1886	3	3	1914
20	13	1887	4	4	1915
21	14	1888	5	5	1916
22	15	1889	6	6	1917
23	16	1890	7	7	1918
24	17	1891	8	8	1919
25	18	1892	9	9	1920
26	19	1893	10	10	1921
27	20	1894	11	11	1922
28	21	1895	12	12	1923
29	22	1896	13	13	1924
30	23	1897	14	14	1925
31	24	1898	昭和 1	15	1926
32	25	1899	2	16	1927
33	26	1900	3	17	1928
34	27	1901	4	18	1929
35	28	1902	5	19	1930
36	29	1903	6	20	1931
37	30	1904	7	21	1932
38	31	1905	8	22	1933
39	32	1906	9	23	1934
40	33	1907	10	24	1935
41	34	1908			
42	宣統 1	1909			
43	2	1910			
44	3	1911			



中華民國電氣事業

(第三卷)

滿洲電業株式會社調查課



第六編 福建省電氣事業

概 梗

本編は福建省に於ける電氣事業

供給事業

二七箇所

一七、七六七KW

自家用發電所

二箇所

三三〇KW

計

三九箇所

一八、〇九七KW

につき資料を蒐集記述せるものなり。

第六編 福建省電氣事業

第一章 總說

事業者數

福建省に於ける電氣事業者は民營二六、外資一、計二八にして此の外に休止中のもの五あり、次表の如く逐年増加の傾向にあるも民國二十二年に比し増加なきは調査の徹底による休止中事業者を除外せるためなり。

自家用發電所は此外にも數箇所あるも調査不充分のため不明なり。

年次	供給事業者		自家用發電所		備考
	事業數	發電容量 KW	事業數	發電容量 KW	
民國二十一年	三	九三二	三	三〇	中國政府調査
民國二十二年	六	九九〇	三	三〇	同
民國二十三年	七	一七七七	三	三〇	當課調査

資本金

民國二十一年度調査によれば資本金五百五十一萬元餘なるも本調査によれば五百九十九萬元にして四十八萬元の増加を示せり。この増加は主として各公司の自然投資増加に基因す。

發電容量

前表に示す如く發電容量の著しき増加は福州電燈公司の五、〇〇〇KW増設其他一般増設せるを主因とす。

前記福州電燈公司の五、〇〇〇KWは閩江上流に水力發電所を建設せるもの、由なるが詳細不明にして疑しき點あるも後日正確なる調査をなすまでこのまゝ記載す。

水力電氣

本省には水力電氣事業左記の如く五あり、その内福州電氣公司の五、〇〇〇KWは前述の如く不確實なるも本省を貫流する閩江は水量豊富にして至る處相當落差を有し八十萬乃至百五十萬馬力の水力を有すと稱す。石炭資源に乏しき本省としては將來注目に値すべきものとす。

福州電氣公司	五、〇〇〇KW
南平電氣公司	八〇KW
照明電氣公司(永安)	二〇KW
古田電燈公司	二九KW
照明水電公司(順昌)	四〇KW

發電燈

民國二十二年福建省に於ける發電量は二一、五七一、二九二KWHにして原動力別發電量次の

如し。

年 利 用 率	發 電 容 量 (KWH)		發 電 容 量 (KW)		計
	(KWH)	(%)	(KW)	(%)	
タービン	一八〇四四三	三六四	七八〇	一〇七	九八九三
汽 機	二八五〇〇	三三三	一〇七	一七	
ディーゼル	一六〇六六三	一八八	九五	八五	一七四
瓦 斯	一四九三七三	三〇四	八五	一七四	
水 力	三五八〇五	一六九	一七四	一七四	二五七二九三
計	三二七二九三	三四九	九八九三	九八九三	

亦次に示す如く販賣電量の八四%が電燈にして電力は殆ど問題とするに足らざる状態なるため自然發電所利用率前記の如く不良なり本省に於て注目すべきは瓦斯機關が殆どディーゼルの伯仲する程使用され居る事なり。

之等發電量の分布を見るに

電燈使用電量	一一、四〇三、四〇六 KWH	五二・八%
電力同	一、八二四、一二八 KWH	八・五%
自用及損失電量	八、三四三、七五八 KWH	三八・七%
計	二一、五七一、二九二 KWH	一〇〇・〇%

本省も中華民國各省の例に漏れず、損用多きと見え損失電量約四〇%に達せり。

普 及 率

民國二十二年度福建省に於ける電燈普及率次の如し。

營業區域内總戸數	二六五、〇〇〇 戸
需用戸數	二九、八八九 戸
普及率	一一・三%

第二章 各 說

第一節 福州 福州電燈公司

一 沿革

宣統二年創立、資本金三百二十七萬元にして電氣供給の外製油、精米、製材及製氷を兼營す。

二 發電所設備

發電所總容量

三相交流

一〇、五〇〇KW

第一發電所容量

三相交流

二、五〇〇KW

汽 罐

不 明

原 動 機

タービン

タービン

製 作 者 類

G E

G E

容 量

五〇〇

一、〇〇〇

廻 轉 數

三、六〇〇

三、六〇〇

臺 數

一

二

發 電 機

三相交流

三相交流

製 作 者 類

G E

G E

電 壓

二、三〇〇

二、三〇〇

容 量

五〇〇

一、〇〇〇

周 波 數

六〇

六〇

廻 轉 數

三、六〇〇

三、六〇〇

臺 數

一

二

据 付 年 數

一九一四

一九一七—一九二三

水 力 發 電 所 容 量

三相交流

五、〇〇〇KW

閩江上流にある由なるも内容不明なり。

第二發電所容量

三相交流

三、〇〇〇KW

汽 罐

水管式

水管式

製 作 者 類

スコダ

汽 壓

スコダ

加熱面平方米	四五〇	一	原動機	タービン	スコダ	三〇〇〇	一	發電機	三相交流	スコダ	三〇〇〇	六〇	一
臺數	一	一	種類	スコダ	三〇〇〇	一	製作者	三相交流	スコダ	三〇〇〇	六〇	一	一
容量	三〇〇〇	一	製作者	スコダ	三〇〇〇	一	電壓	三相交流	スコダ	三〇〇〇	六〇	一	一
廻轉數	三〇〇〇	一	種類	スコダ	三〇〇〇	一	容量	三相交流	スコダ	三〇〇〇	六〇	一	一
臺數	一	一	周波數	スコダ	三〇〇〇	一	廻轉數	三相交流	スコダ	三〇〇〇	六〇	一	一
臺數	一	一	製作者	スコダ	三〇〇〇	一	臺數	三相交流	スコダ	三〇〇〇	六〇	一	一

三 据付年 一九三三
 料 金 民國二十三年九月現在

電燈	一 KWH	〇・二四
每月每馬力	三〇 KWH 以內	一 KWH
最低料金	一〇〇 KWH 以內	同
	一〇一 KWH 以外	同
	三〇 KWH	〇・〇六

第二節 福州 福建造紙股份有限公司

一 沿革
 民國十八年創立、同十九年操業開始、公稱資本金百萬元、拂込九十萬元なり。

汽罐	三相交流	一五五 KW
發電所容量	三相交流	一五五 KW
種類	ガルベ	九

製作者	汽製	加熱面	汽機	種類	馬力	廻轉數	發電機	種類	製作者	電壓	容量	周波數
一四	一三〇	一	豎型複式	四五〇	一	三相交流	三相交流	BBC	一九四			

廻轉數	勵磁機	直結五KW
一	一	

第三節 連江 琯江電燈廠

民國五年創立、投資額八千四百元にしてディーゼル機關運轉直流一二KW 二二〇V 發電機一臺ある由なるも内容不明なり。

第四節 福清 福清電燈公司

- 一 沿革
 - 民國八年創立、資本金三萬元なり。
- 二 發電所設備
 - 發電所容量 三相交流 四五KW

左記設備ある由なるも内容不明なり。
ディーゼル機關一臺 三相交流 六〇サイクル 二三〇〇V 四五KW 發電機一臺

三 料 金 民國二十三年九月現在

電 力	電 燈	電 量
一 KWH	〇二四	
二〇〇KWH 以內	一 KWH	
五〇〇同	〇〇九	
一〇〇〇同	〇〇七	
一〇〇〇一KWH 以上	〇〇六	
	〇〇五	

第七節 鼓浪嶼 中華電氣公司

一 沿 革

一九一三年創立、當初本島に於ける電燈電力供給に對する權利を John Richard & Co., Ltd に包括附與せり。現に該公司にて經營中にして主任技師は Benedict C. Ong (華人?) なり。
一九三三年現在資本金二十萬元にして直流六五五KW なりしが、一九三四年十月交流五七〇KW の新發電所を建設せり。

二 發電所設備

發電所容量

直 流

六五五KW

舊 發 電 所

三 相 交 流

五七〇KW

瓦 斯 機 關 四 臺

直 流

二六〇KW

デ ー ゼ ル 一 臺

直 流

三九五KW

新 發 電 所

三 相 交 流

五七〇KW

尙詳細不明なり。

第八節 仙遊 仙遊電燈公司

資本金十萬元、投資額六萬元にして、デーゼル一臺、三相交流 五〇サイクル 八〇KW 發電所を有する由なるも内容不明なり。

第九節 永春 永春電燈公司

民國六年創立、最初資本金五萬元なりしが、同八年七萬元に増資、瓦斯機關一臺 三相交流 六〇サイクル 三〇KW の設備ある由なるも内容不明なり。

第一〇節 晉江 泉州電燈電力公司

沿革

民國四年創立最初資本金五萬元なりしが同七年十萬元に増資せり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

二五〇KW

左記設備ある由なるも詳細不明なり。

イ 瓦斯機關一臺 三相交流 五〇サイクル 三、五〇〇V 七五KW 一臺

ロ デーゼル機關一臺 三相交流 五〇サイクル 三、五〇〇V 一七五KW 一臺

點 燈 數 三、七、七、九燈

第一一節 安海 安海電燈公司

資本金五萬元、瓦斯機關運轉

三一・五KW

交流

五〇サイクル

デーゼル運轉

六〇・〇KW

交流

五〇サイクル

右設備ある由なるも内容不明なり。

第一二節 長汀 汀州電燈公司

民國十四年創立、資本金二萬五千元 瓦斯機關一臺 交流 四〇KWを有する由なるも内容不明なり。

第一三節 上杭 福耀電燈公司

内容一式不明なり。

第一四節 龍溪 龍溪電燈公司

民國五年創立、資本金十萬元、投資額九萬二千元、瓦斯機關運轉による直流四六〇V一七〇KWの發電所ある由なるも内容不明なり。

第一五節 龍溪 永成電燈公司

資本金一萬元、デーゼル運轉 三三KW發電所あるも休業中なり。

第一六節 龍溪 華泰鋸木電氣公司

民國四年創立、五年五月開業、資本金六萬元、製材を兼營す。

瓦斯機關 一臺 直 流 三七KW 二〇〇V
 汽 力 直 流 一七七KW

ある由なるも詳細不明なり。

第一七節 南平 南平電燈公司

一 沿 革

民國二十一年創立、資本金四萬元にして、現在投資額五萬四千元なり。南平縣城を去る一二九軒の閩江上流沙溪の水力を利用し八〇KW發電所を建設せり。本公司は一名延平電燈公司と稱す。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

八〇KW

土木工事

鐵筋コンクリートダム

高三〇尺

長一二六尺

下巾二〇尺

落差

一五・二五米

流量

春夏

二・二八立方

秋冬

二・一三立方

水車

豎型

四九馬力

二臺

發電機 三相交流 五〇サイクル 四〇KW 二臺

第一八節 永安 昭明水力電燈公司

一 沿 革

民國十二年創立、資本金二萬元、發電所は永安城外の小河を利用するものなり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

二〇KW

土木工事

發電所上流六七米の地點に木造ダムを設備し、取入口には石造ダムを設置せり。

落差 三・〇五乃至二・六米

水量 一・〇七乃至〇・九八六立方

水車 二九馬力 一臺

發電機 二五KVA 三相交流 六〇サイクル 四八〇V 一臺

第一九節 沙縣 沙縣電燈公司

資本金二萬元 瓦斯機關一臺 交流 六〇サイクル 三三KWの發電所ある由なるも休業

中なりと。

第二〇節 建甌 建甌電燈公司

建甌にあり。民國八年創立。資本金十二萬元。瓦斯機關一臺。三相交流。六〇サイクル。九〇KWある由なるも内容不明なり。

第二一節 建甌 南雅電燈公司

資本金二萬元。汽機一臺。直流一二KWの發電所を有する由なるも休業中なりと。

第二二節 建甌 上洋電氣公司

建甌縣洋口鎮にあり。資本金二萬元。瓦斯機關一臺。交流。六〇サイクル。二五KWある由なるも内容不明なり。

第二三節 浦城 浦城電燈公司

資本金六萬元。瓦斯機關一臺。交流三〇KWの發電所を有する由なるも休業中なりと。

第二四節 古田 古田電燈公司

資本金四萬六千八百元。水車運轉。二九KW。交流。六〇サイクルの發電所ある由なるも内容不明なり。

第二五節 古田 水口電燈公司

民國八年創立。資本金二萬元。瓦斯機關による三相交流二一KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第二六節 浮官 浮官電燈廠

電燈公司あるも休業中なりと。

第二七節 海登 海登電燈電力公司

民營にて三〇KW發電所を有し經營中の由なるも内容不明なり。

第二八節 漳南 漳南電燈公司

電燈公司あるも休業中なりと。

第二九節 金門 金門電燈新股東公司

資本金一萬四千元、ディーゼル運轉 一八・五KWの發電所ある由なるも内容不明なり。

第三〇節 順昌 照明水電公司

資本金一萬二千元、水車運轉による四〇KW 交流 六〇サイクル發電所ある由なるも内容不明なり。

第三一節 建陽 建陽電燈公司

民國八年創立、資本金四萬元 四〇KWの發電所ある由なるも内容不明なり。

第三二節 福安 福安電燈公司

ディーゼル 一臺 三相交流 一五KW 二四〇Vの發電所ある由なるも内容不明なり。

第三三節 角尾 角尾電燈公司

廈門より一七哩の地にして五〇〇V 七四KWの發電所を有し電燈三、七〇〇燈供給し居る

由なるも内容不明なり。

第三四節 馬尾 海甲馬尾造船所

汽機運轉による一七五KW發電所あるも内容不明なり。

福建省電氣供給事業者一覽表

縣名	廠名	設立年	組織	資本金 (元)	原動機	電流	電壓	容量 電量 KW	周波 數	備考
福州	福州電氣公司	宣統二年	民營	三三〇〇〇	水・汽	交流	二二〇〇	一〇、五〇〇	〇	
連江	琯江電燈廠	民國五年	同	八、〇〇〇	汽	同	一〇〇	一三	〇	
福清	福清電燈公司	民國八年	同	三〇、〇〇〇	油	同	二二〇〇	一五	〇	
莆田	莆田電燈公司	民國八年	同	一四、〇〇〇	油	同	二二〇〇	一五	〇	
恩明	廈門電燈電力公司	宣統三年	同	一、三〇〇、〇〇〇	汽	同	二二〇〇	四、〇〇〇	〇	
仙遊	中華電燈公司	民國二年	英國	二〇〇、〇〇〇	汽・油	同	二二〇〇	一、三三五	〇	
永春	仙遊電燈公司	民國六年	同	一〇〇、〇〇〇	油	同	二二〇〇	一、三五	〇	
永春	永春電燈公司	民國六年	同	七〇、〇〇〇	油	同	二二〇〇	一、三五	〇	

廣東省電氣事業

年份	發電量 (萬度)	電網長度 (公里)	電燈數量 (盞)	電機設備 (台)	電氣工人 (名)
1927	1.5	100	1000	50	100
1928	2.0	150	1500	70	150
1929	2.5	200	2000	100	200
1930	3.0	250	2500	130	250
1931	3.5	300	3000	160	300
1932	4.0	350	3500	190	350
1933	4.5	400	4000	220	400
1934	5.0	450	4500	250	450
1935	5.5	500	5000	280	500
1936	6.0	550	5500	310	550
1937	6.5	600	6000	340	600
1938	7.0	650	6500	370	650
1939	7.5	700	7000	400	700
1940	8.0	750	7500	430	750
1941	8.5	800	8000	460	800
1942	9.0	850	8500	490	850
1943	9.5	900	9000	520	900
1944	10.0	950	9500	550	950
1945	10.5	1000	10000	580	1000
1946	11.0	1050	10500	610	1050
1947	11.5	1100	11000	640	1100
1948	12.0	1150	11500	670	1150
1949	12.5	1200	12000	700	1200

第七編 廣東省電氣事業

梗概

本編は廣東省に於ける電氣事業

供給事業者	五五箇所	一〇三、六七五KW
自家用發電所	七箇所	一二、三九二KW
計	六二箇所	一一六、〇六七KW

につき資料を蒐集記述せるものなり。

第一章 總 說

事業者 數

廣東省に於ける電氣事業は江蘇省、浙江省に次ぐものにして中國全省中第三位なり、事業者數を見るに民營五一、公營一、外資三、計五五にして一見前年に比し減少せるも休業中一五事業者を除外せるためなり。

年 次	供給事業者		自家用發電所		備 考
	事業數	發電容量 KW	事業數	發電容量 KW	
民國二十一年	四	三七八〇五	三	三二九	中國政府調査
民國二十二年	五	三三五八	三	三二九	同
民國二十三年	五	四〇九五	六	八六四三	當課調査
同 年 外 資	三	六三六〇	一	三七〇	同

資 本 金

最近各年度に於ける投資額を見るに外資を除き

民國二十一年

六、七六五、六〇〇元

中國政府調査

民國二十二年

一三、五九八、七四五元

同

民國二十三年

七、五五九、二〇〇元

本課調査

にして民國二十二年度の内譯不明のため詮議の方法なきも或は外資を含めたるものならんと思惟す。若し外資九百五十萬元を加ふるときは一千七百五萬九千二百元となり、中國全省中江蘇省に次ぎ第二位なり。若しそれ外資を除外するも江蘇、浙江、河北に次ぐ第四位にして全國有數の投資額なり。

原 動 機

原動機を分類すれば次の如くにして汽力及瓦斯力他省に比し割合に多し、是れ本省は水利便なるため大事業者は一般に石炭を使用し、又地方不便の地に於ては木炭の供給容易なるため瓦斯力の使用を馴致せるものならん。

計	原 動 力			事業者數
	汽 力	油 力	瓦 斯 力	
六三	一三	二二	一四	一五

註 一事業者にて兩種原動力を使用するものあるため實數増加せり。

發 電 容 量

發電容量の昨年度に比し約四、六〇〇KW増加は主として光中電燈公司の増設にして其他一般の増設に基因するものなり。次に外資に依る香港、九龍、澳門等の發電容量を見るに何れも相當發展せるは注目し値すべし。

發電量

民國二十二年廣東省に於ける發電量は外資の分を除外し九三、六四一、五〇九KWHにして全國第二位なり。次に原動力別發電量を示せば左の如し。

發電容量 (KW)	發電量 (KWH)	年利 (率)	タービン	汽機	ディーゼル	瓦斯	計
三六、四〇〇	一八、五〇〇	七三、二五、六七三	三九〇、三八一	一五、六六、六六四	一八、六六、八八三	九三、六四一、五〇九	三六、〇〇五
		三三、三	二四三	二六五	三三一	二九七	

又此の外に外資に依る發電量次の如し。

香港 民國二十年 四六、〇八五、三〇〇KWH
 九龍 民國二十三年 二九、八六七、七六〇KWH
 澳門 不明

之等を合計するときは廣東省一年間の發電量は一七〇、〇〇〇、〇〇〇KWHに達すべし次に中國側發電量の分布を見るに

電燈使用電量 三五、八八六、六八九KWH 三八三%

電力同 一六、一六八、八三二KWH 一七三%

自用及損失電量 四一、五八五、九八八KWH 四四・四%

計 九三、六四一、五〇九KWH 一〇〇・〇%

本省は電力使用電量割合に多く全販賣電量の三分の一に達せるは他省に比し偉とするに足るも損失電量の過大なるは驚くの外なし。

普及率

民國二十二年廣東省に於ける電燈普及率次の如し。但外資關係の分を含まず。

供給区域内總戸數 四五九、〇〇〇戸

需用家數 一〇四、九一九戸

普及率 二三・一%

即ち普及率又は中華民國第一位なり。

第二章 供給事業者各説

第一節 廣東 廣東市電力廠

沿革

光緒三十一年開業せる粵垣電燈公司是、英商旗昌洋行が三〇年間廣東市の中心より半徑一二

哩の地に電氣供給の特権を有せるを繼承せるものなるが、當時の條件の一として二十五年後には毎年利益金の十五倍の價格にて買收する事を得となり居たり。然るに宣統元年當時資本金百五十萬元、利益年十二萬元この還元額百八十萬元なるを百四十四萬二千九百四十二元五毫にて買收官より三分の一を出資し資本金百五十萬元の官商合辦の公司を創立せり。
 民國十三年官股を全部賣却し純民營になりたるが民國二十一年七月市政府は強制買收し公營企業とせり。當時資本金三百〇三萬元なり。
 尙河南に分廠を有す。

二 従事員

職員

一五五人

職

工

七五〇人

計

九〇五人

三 發電所設備

發電所總容量

三相交流

二五、〇〇〇 KW

イ 廣東本廠容量

三相交流

二二、〇〇〇 KW

汽 罐

製 種

類

B

W

汽 製 種

者 類

B

W

壓 封 度

二一五

馬力	加熱面	過熱度	原動機	製種	容製	廻轉	發電機	電製	容電
平方呎	F	度	年	類	者	數	數	者	量
七五〇	七五〇〇	一五〇	六	タービン	G	二五〇〇	三、六〇〇	G	二、五〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一	一、九三三	タービン	G	五、〇〇〇	三、六〇〇	G	五、〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一	一、九三三	タービン	G	六、〇〇〇	三、六〇〇	G	六、〇〇〇
七五六	七五〇〇	一五〇	六	タービン	G	二五〇〇	三、六〇〇	E	二、五〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一	一、九三三	タービン	G	五、〇〇〇	三、六〇〇	E	五、〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一	一、九三三	タービン	G	六、〇〇〇	三、六〇〇	E	六、〇〇〇

河南分廠容量		周波數	廻轉數	據付年	種類	製作者	馬力	廻轉數	發電機	種類	製作者	電壓	容量
六〇	三六〇〇	二	一九二〇	三相交流	S	ディーゼル	二	二	三相交流	S	ディーゼル	一〇〇〇	一〇〇〇
六〇	三六〇〇	一	一九二四	三相交流	S	ディーゼル	一	一	三相交流	S	ディーゼル	一〇〇〇	一〇〇〇
六〇	三六〇〇	二	一九二七	三相交流	S	ディーゼル	二	二	三相交流	S	ディーゼル	一〇〇〇	一〇〇〇

四 發電所計畫

民國二十三年シーメンス會社と五〇サイクル、三〇、〇〇〇KWの新火力發電所を二箇年間に建設する計畫の下に二百五十萬香港弗にて契約せり。

又別に英貨五十四萬磅を投じ、廣東の上流九二哩を去る翁江の水力を利用し最低七、五〇〇KW最高二二、〇〇〇KWを發電する發電所を建設せんと計畫中なり。本發電所完成の曉は廣東市は年二百萬元を節約し得べしと。

五 發電狀況 民國十九年

發電量	尖頭負荷	最低負荷	平均負荷	年負荷率
六、二四九、二二〇KWH	一五、五〇〇KW	五、六〇〇KW	七、一三四KW	四六%



六 損失電量

配電設備の不良偷電等による損失の發電量に對する割合次の如し

民國十二年	四一・五九%
同十三年	四九・二七%
同十四年	五六・三五%
同十五年	六三・二九%
同十六年	六六・四二%
同十七年	六五・三六%
同十八年	六五・二五%
同十九年	六五・三一%

七 收入

定額燈	一二五三五五 ^元
從量燈	三二〇〇三三五六一
街燈	一五五三四〇七九
官署	一四四八五七五七

八五・五%

八 電力損耗

計

支出

總務費	四六四七〇九九三
發電及營業費	二二二三四二〇九八八
維持費	四五九九一三四一
償却費	三七五九一一三七
計	三、五三四七四四・五九
差引利益	四五八九七一〇六
資本利益	三、〇〇〇、〇〇〇〇
固定資金	四、五二〇、〇〇〇〇
電力	一 K W H
電燈	一 K W H

二九〇、二八七七七
 二九〇、三五六三六
 三、九九三、七一五六五

七三%
 七二%
 一〇〇〇%

八 電力 (民國二十三年九月現在)

(民國二十年度)

一 K W H 〇・二〇
 一 K W H 〇・一〇五乃至〇・〇七

第二節 香港 香港電燈公司

一 沿革

英國人經營の公司にして香港一圓に供給す、一八八九年創立一八九〇年營業を開始せり。
 資本金六百萬元、拂込四百五十萬元にして毎年二五%の配當をなしつゝあり、然れどもこゝで注意すべきは設備容量四一、三六〇KWに對し資金の餘りに少額なることなり。

二 發電所設備

發電所容量 三相交流 四一、三六〇KW
 第一發電所容量 三相交流 三九、〇〇〇KW
 汽 罐

製作者	B	B	第一汽罐室	B	B	第二汽罐室
	W	W		W	W	
	B	B		B	B	
	W	W		W	W	
	B	B		B	B	
	W	W		W	W	
	B	B		B	B	
	W	W		W	W	



發電機	臺數	廻轉數	容 量 KW	汽 溫	汽 壓	製 作 者	種 類	原 動 機	据 付 年	臺 數	焚 火 法	蒸 發 量 封 度	汽 溫 F	汽 壓 封 度
第一發電室	一	三、〇〇〇	一、五〇〇	五七〇	一九〇	BTH	タービン	アンダー フキード	一七	一	二五、〇〇〇	二五〇〇〇	二〇〇	
	二	三、〇〇〇	五、〇〇〇	五七〇	一九〇	EEC	タービン	微粉炭 (F. Arthur 3000 Lb.P.H.)	一	一	三二、〇〇〇	五〇〇〇〇	二〇〇	
	一	三、〇〇〇	五、〇〇〇	五七〇	一九〇	BTH	タービン	鎖 床	一九二七	二	五〇、〇〇〇	六〇〇	二〇〇	
	一	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五七〇	一九〇	BTH	タービン	アンダー フキード	一九二八	二	七五、〇〇〇	七五〇	四二五	
第二發電室	一	三、〇〇〇	一二、五〇〇	七五〇	四〇〇	CMR	スター タービン	アンダー フキード	一九三一	二	七五、〇〇〇	七五〇	四二五	
	一	三、〇〇〇	三、〇〇〇	七五〇	四〇〇	CMR	スター タービン	アンダー フキード	一九三一	二	七五、〇〇〇	七五〇	四二五	

種 類	製 作 者	電 壓	容 量	周 波	廻 轉 數	臺 數	据 付 年	第二發電所容量
三相交流	B T H	六、六〇〇	一、五〇〇	五〇	三、〇〇〇	一	一九二〇	ランカウシヤ一汽罐
三相交流	E E C	六、六〇〇	五、〇〇〇	五〇	三、〇〇〇	二	一九二二	B W 汽 罐
三相交流	B T H	六、六〇〇	五、〇〇〇	五〇	三、〇〇〇	一	一九二四	汽 機 發 電 機
三相交流	B T H	六、六〇〇	一〇、〇〇〇	五〇	三、〇〇〇	一	一九二九	デ一ゼル發電機
三相交流	C M R	六、六〇〇	一、二五〇〇	五〇	三、〇〇〇	一	一九三二	デ一ゼル發電機
								周波數變換機
								七五〇KVA
								二五〇KW
								二〇〇KW
								三五〇KW
								以上設備ある由なるも内容不明なり。

第三發電所容量

發 電 機
三 發 電 狀 況

三〇KW

六〇KW
二臺

年 發 電 量 KWH

一九二五年

一九三一年

發 電 所 容 量 KW

三二、三九二、〇〇〇

四六、〇八五、三〇〇

尖 頭 負 荷 KW

一六、五〇〇

二六、五〇〇

平 均 負 荷 KW

九、二〇〇

一一、三〇〇

年 負 荷 率 %

三、七〇〇

五、三三〇

年 利 用 率 %

四〇

四三

收 支 (元)

一九二九年

一九三〇年

一九三一年

固 定 資 產

八、三一七、二九二

八、〇一八、六一〇

八、八九六、九五九

拂 込 資 本 金

四、五〇〇、〇〇〇

四、五〇〇、〇〇〇

四、五〇〇、〇〇〇

積 立 金

二、八〇〇、〇〇〇

三、四〇〇、〇〇〇

三、九〇〇、〇〇〇

總 利 益 ?

二、三〇一、一六二

二、二七四、三八五

二、三三四、二九一

純利	一七三三、六五四	一、六六六、七九九	一、七〇一、四三四
償却金	五四八、六〇八	五八七、一六五	六二六、三六七
配當金	一、一二五、〇〇〇	一、一二五、〇〇〇	一、一二五、〇〇〇
記當率%	二五	二五	二五
五料	金 一九三四年九月現在		
從量燈			
每月電氣料	二五元以内	一 K W H	〇・一六〇
	一〇〇元同	同	〇・一五二
	二五〇元同	同	〇・一四八
	五〇〇元同	同	〇・一三六
	一、〇〇〇元同	同	〇・一二八
	一、五〇〇元同	同	〇・一二〇
	二、〇〇〇元同	同	〇・一一二
	二、五〇〇元同	同	〇・一〇四
	三、〇〇〇元同	同	〇・〇九六
	三、〇〇〇元以上	同	〇・〇八八

電力

電氣料

基本料金月

六馬力以内

一 K W H

〇・〇七五

一二馬力同

一七五〇〇

一八馬力同

三〇〇〇〇

二四馬力同

四八〇〇〇

一 K W H

六〇〇〇〇

第三節 香港 香港電車公司

The Hongkong Tramway Co. Ltd.

一 沿革

一九〇二年香港政廳より香港植民地に於ける電車事業を特許さる。尙一九二一年より九龍にて自動車を経営せり。

特許條件は五〇年を経過する時又は其後五年毎に六箇月の豫告を以て時價にて買収することを得、會社破産の時又同じ。初め自家發電せるが一九二二年以來香港電燈公司より受電に改め發電所を處分せり。

第四節 九龍 中國電力公司

一 沿革

英國人經營にして香港の對岸九龍一圓に供給す。一九〇一年創立資本金五百萬元拂込四百九十九萬七千八百八十元なり。

又一名中華電燈電力公司と稱す。

二 發電所設備

汽	發電所容量	三相交流	一九五〇〇KW
種	製作者	類	水管式
製作者	壓封度	B W	
汽	壓封度	B W	
過熱	度	一九〇	
加熱	面平方呎	二〇〇	
蒸發	量	四、四二四	
臺	數	九、〇〇〇	
		四	
		二、〇〇〇	
		四	
		六、〇〇〇	
		一	

原動機

據付年	種	製作者	容量 KW	迴轉數	臺數	發電機	種	製作者	容量 KW	週波數	迴轉數	臺數	據付年
一九三三	タービン	BTH	七五〇	三、六〇〇	二	三相交流	BTH	七五〇	二、三〇〇	七五〇	六〇	二	一九二二
	タービン	BTH	三、〇〇〇	三、六〇〇	一	三相交流	BTH	三、〇〇〇	二、三〇〇	三、〇〇〇	六〇	一	一九二四
	タービン	MV	五、〇〇〇	三、六〇〇	一	三相交流	MV	二、三〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六〇	一	一九二五
	タービン	BTH	五、〇〇〇		二	三相交流	BTH	六、六〇〇	五、〇〇〇		五〇	一	一九二九

製作者		容量 KW		發電狀況	
一	ブラッシュ	一、五〇〇		一九二〇年	尖頭負荷 一、〇七〇 KW
二		二、二〇〇 V		一九二五年	三、四〇〇 KW
三		六、六〇〇 V		一九二七年	四、二〇〇 KW
四		二		一九三三年	七、五七〇 KW
五				(一九三三年)	三、四一〇 KW
六				平均負荷	四五〇%
七				年負荷率	〇、八五瓩
八				一 KWH 當石炭消費量	
九				支 (元)	
十				發電量	一三、五九七、九二九 KWH
十一					一六、五七三、四七六 KWH
十二					二九、八六七、七六〇 KWH

固定資産		一九二九年		一九三〇年		一九三一年	
一	拂込資本金	三、七〇七、五二一	三、七四二、七六二	五、五三四、七一五			
二	積立金	三、六五〇、〇〇〇	八、七八〇	四、九九七、八八〇			
三	總利益 ?	七六一、三六四	七七九、七五四	七五〇、八六四			
四	純利益	五三五、四七六	五九一、六三五	五九三、〇六五			
五	償却金	二一三、〇五九	一七五、一三六	二二二、七九〇			
六	配當金	五一、一〇九	六一九、九七七	四九九、七八三			
七	配當率 %	一四	?	一〇			
八	五需用家數	一九二九年	一九三〇年	一九三一年			
九	一九二九年	一九三〇年	一九三一年				
十	料金 (一九三四年九月現在)	一七、〇〇〇 戶					
十一	電燈	一 KW H	〇、一八				
十二	電力、電熱	同	〇、〇七				
十三	割引率		一%				

一、五〇〇 KWH 以上、九九九 KWH 以内
以上一、〇〇〇 KWH 毎に 1% を増し、二五% にして止む。

第五節 澳門 澳門電燈公司

一 沿革

光緒二十六年ポルトガル人の創立にして資本金不明なり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

一、八三〇KW

在來デーゼル發電所、三相交流、五〇サイクル、三、三〇〇V、一、四二〇KWありたるが

一九三三年五月デーゼル二五〇KW一臺増設せり。

尙一六〇KWある筈なるも詳細不明なり。

三 燃料

金 一九三四年九月現在

從量燈

次	次	次	次	次	次
の	の	の	の	の	の
一五〇〇同	五〇〇同	五〇〇同	三五〇KW H	一五〇KW H 以内	一KW H
〇・二四	〇・二三	〇・二二	〇・二二	〇・二一	〇・二〇

電	次	次	次	次	電
力	の	の	の	の	力
每馬力毎月	全	部	三、〇〇〇同	三、〇〇〇同	每馬力毎月
一〇〇KW H 以内	一五〇同	二〇〇同	二五〇同	二五〇同	一〇〇KW H 以内
一KW H	同	同	同	同	一KW H
〇・一〇五	〇・〇九七五	〇・〇九五	〇・〇八二五	〇・〇七五	〇・一〇五

電	次	次	次	次	電
熱	の	の	の	の	熱
毎月使用量	五〇同	五〇同	五〇KW H	一〇〇KW H 以内	毎月使用量
一KW H	同	同	同	同	一KW H
〇・〇八〇	〇・〇七五	〇・〇七五	〇・〇七五	〇・〇七五	〇・〇八〇

次	次	次	次	次	次
の	の	の	の	の	の
一〇〇	一〇〇	一五〇	一五〇	二〇〇	全部
KWH	KWH	同	同	同	同
〇〇六七五	〇〇六五〇	〇〇六二五	〇〇六〇〇	〇〇五七五	〇〇五五〇

第六節 番禺 福利電燈公司

資本金六萬元、デール二臺、交流一四〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第七節 番禺 本善電燈公司

一 沿革
民營資本金二萬八千元なり。

二 發電所設備

發電所容量 三相交流 四二KW

原動機

種類 瓦斯

製作者

馬力

廻轉數

臺數

發電機

種	製	電	容	周	廻	臺
類	者	壓	量	波	轉	數
		K	W			
		四	二			
		五	〇			
		一				
三	相	交	流			

第八節 番禺 天豐電燈公司

一 沿革

一 資本金二萬一千元、創立年不明なり。

二 發電所設備

發電所容量	直流	五二KW
ディーゼル	一〇V	一臺
發電機	直流	五二KW
	一〇V	一臺

第九節 南海 普光電燈公司

一 沿革

民國五年創立、初め聯光電燈公司と稱せしものにして、資本金七萬元、投資額八萬五千二百元なり。

二 發電所設備

發電所容量	三相交流	一四〇KW
原動機	瓦斯	ディーゼル
製馬力	一	
廻轉數	一	
發電機	三相交流	三相交流
製作者	類	三相交流

電壓	容量 KW	周波數	廻轉數	臺數
八〇	八〇	六〇	一	一
六〇	六〇	六〇	一	一

第一〇節 南海 光大電燈公司

民營資本金四萬八千四百元六〇KW發電所を有する由なるも内容不明なり。

第一一節 順德 光中電燈公司

一 沿革

光中電燈公司是次の三公司を合併し民國二十年創立せるものなり。

- イ、順德 光中電燈公司 資本金 十四萬元
- ロ、陳村 利華電燈公司 民國四年創立 資本金 八萬元
- ハ、海南 光華電燈公司 民國二年創立 資本金二十五萬元

二 發電所設備
 發電所總容量 三相交流 九四五〇KW

イ、順德發電所容量

デ	一	ゼ	ル	三相交流	七、九〇〇KW
タ	一	ビ	ン	二臺	二四五〇KW
タ	一	ビ	ン	二臺	四五〇KW

この發電機は一九三二年増設せるものなり。

- ロ、陳村發電所容量 三相交流 二二二〇〇V 六〇サイクル 三〇KW
- ハ、海南發電所容量 三相交流 二二二〇〇V 六〇サイクル 一、五二〇KW

三 料金 民國二十三年九月現在

一 KW H 〇・四〇

第一二節 東莞 莞城電燈公司

資本金五萬元、四〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第一三節 東莞 廣益電燈公司

一 沿革

民國四年創立、初め資本金七萬元なりしが其後十萬元に増資せり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

一四二KW

瓦斯機關

發電機

三相交流

二二〇〇V

六〇サイクル

一四二KW

第一四節 東莞 利太電燈公司

民國五年創立、資本金六萬元の公司ある由なるも内容不明なり。

第一五節 從化 從化電燈公司

民營電燈公司ある由なるも一切不明なり。

第一六節 臺山 公益電燈公司

一 沿革

民國五年創立、初め資本金三萬元の處六萬元に増資せり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

七〇KW

デージェル

二臺

發電機

三相交流

六〇サイクル

七〇KW

第一七節 臺山 光昌電燈公司

資本金五萬元、民營七〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第一八節 臺山 普照電燈公司

一 沿革

民營資本金四萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

五二KW

瓦斯機關

一臺

デージェル

一臺

發電機

三相交流

一一〇V

六〇サイクル

五二KW

第一九節 臺山 永明電燈公司

一 沿革

民國四年創立、資本金六萬三千元なり。

二 發電所設備

發電所容量	三相交流	二四〇KW
デージェル		二臺
發電機	三相交流	二二二〇V
		六〇サイクル
		二四〇KW

第二〇節 臺山 大光電力公司

投資額一萬四千元なり。

デージェル 一臺 直流發電機 二二〇V 三五KW 一臺ある由なるも内容不明なり。

第二一節 中山 迪光安記電力燈所

資本金六十五萬元、ターボ發電機二臺 交流六〇サイクル 二、〇〇〇KWある由なるも内容不明なり。

第二二節 新會 新光電燈公司

一 沿革

民國四年創立、初め資本金十萬元なりしが現在十四萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量	三相交流	三七〇KW
瓦斯機關		四臺
發電機	三相交流	二、四〇〇V
		六〇サイクル
		三七〇KW

第二三節 三水 耀南電燈公司

一 沿革

民國三年創立、資本金七萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量	三相交流及直流	一五五KW
瓦斯機關		二臺
發電機	三相交流	二、二〇〇V
		六〇サイクル

發電機 直 流

第二四節 清遠 光遠電燈公司

一 沿 革

民國四年創立、資本金三萬五千元なり。

二 發電所設備

發電所容量

單相交流

八七五KW

瓦斯機關

二四〇〇V

六〇サイクル

八七五KW

發電機

單相交流

二四〇〇V

六〇サイクル

八七五KW

第二五節 高要 瑞光電燈公司

資本金六萬元、次の設備ある由なるも内容不明なり。

瓦斯機關

二臺

デ ー ゼ ル

一臺

發電機

三相交流

六〇サイクル

一四〇KW

第二六節 四會 振業電燈公司

一 沿 革

民營資本金三萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

一四二KW

瓦斯機關

一臺

デ ー ゼ ル

一臺

發電機

三相交流

六〇サイクル

一四二KW

第二七節 開平 發明電燈公司

民營資本金五萬元の電燈公司ある由なるも内容不明なり。

第二八節 開平 長沙電燈公司

資本金一萬五千元の民營電燈事業あるも内容不明なり。

第二九節 開平 光遠電燈公司

民營、資本金三萬元の電燈公司ある由なるも内容不明なり。

第三〇節 羅定 耀羅電燈公司

資本金二萬五千元の電燈公司ある由なるも内容不明なり。

第三一節 鬱南 都城電燈公司

民國六年創立、デージェル運轉による二五KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第三二節 曲江 韶州電燈公司

一 沿革

民國三年創立、資本金十萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量

デージェル

三相交流

一八〇KW

二臺

發電機 三相交流 二四〇〇V 六〇サイクル 一八〇KW

第三三節 惠陽 惠東電燈公司

一 沿革

民國六年創立、資本金五萬元、拂込三萬五千元なり。

二 發電所設備

發電所容量

デージェル

三相交流

一〇〇KW

二臺

發電機 三相交流 二二〇〇V 六〇サイクル 一〇〇KW

第三四節 海豐 同益電燈公司

資本金四萬元の民營電氣事業ある由なるも内容不明なり。

第三五節 龍川 龍川電燈公司

民營、資本金八萬元、一六八KWの發電所ある由なるも内容不明なり。

第三六節 潮安 昌明電燈公司

一 沿革

民國四年創立、資本金八萬元、投資額十二萬八千元なり。

二 發電所設備

發電所容量 三相交流

三一〇KW

原動力 汽力

三一〇KW

發電機 三相交流 二、三〇〇V 六〇サイクル

三一〇KW

第三七節 潮安 光華電燈公司

一 沿革

民國三年創立、初め資本金三萬圓の處、其後八萬元に増資せり。

二 發電所設備

發電所容量 三相交流

六〇KW

瓦斯機關 三相交流 二、二〇〇V 六〇サイクル

六〇KW

發電機 三相交流 二、二〇〇V 六〇サイクル 六〇KW

第三八節 汕頭 開明電燈公司

一 沿革

光緒二十八年創立、資本金五十一萬二千元なり。

二 發電所設備

發電所容量 直流一、三四〇KW 三相交流一、〇二〇KW

汽機三臺 直流一、三四〇KW

三相交流一、〇二〇KW

汽機一臺 三相交流五〇サイクル

二〇〇KW 一臺

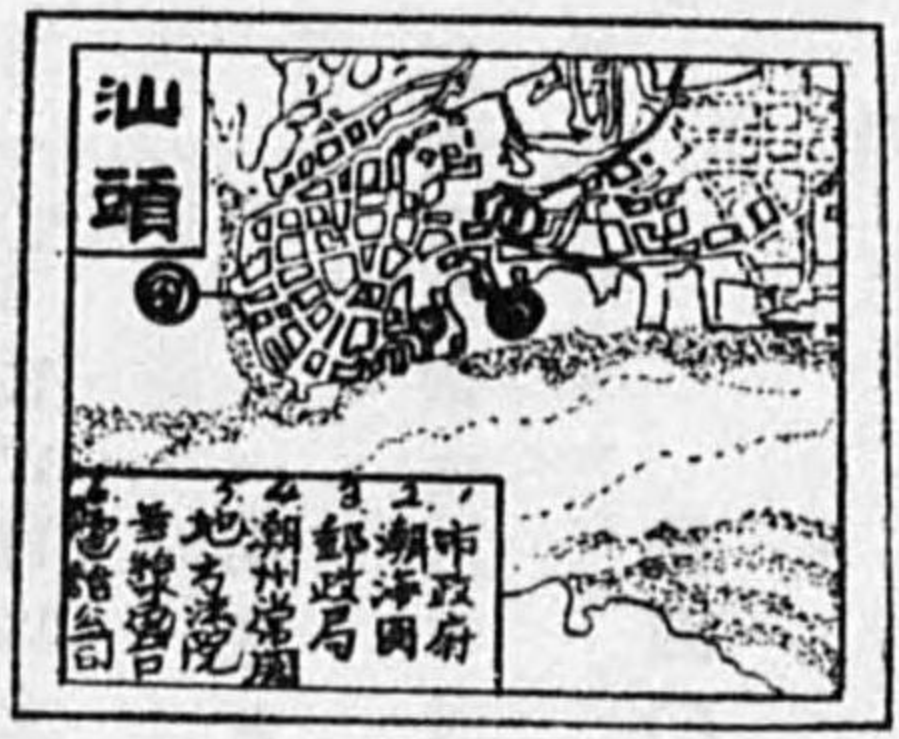
ディーゼル一臺 三相交流五〇サイクル

八二〇KW 一臺

三 料金 民國二十三年九月現在 二五W 二、二一〇

定額燈 二五W 二、二一〇

從量燈 二五W 二、二一〇



一〇〇KWH以內

一KWH

〇・二六〇

二〇〇同

同

〇・二四七

四〇〇同

同

〇・二三四

六〇〇同

同

〇・二二一

電力	六〇一KWH以上	一KWH	〇二〇八
----	----------	------	------

電力	五〇KWH以内	一KWH	〇二六
電力	一〇〇同	同	〇一九
電力	一〇一KWH以上	同	〇一三

第三九節 梅縣 嘉應電燈公司

民國五年創立汽力發電所ある由なるも内容不明なり。

第四〇節 梅縣 永光電燈公司

一 沿革

民營資本金二萬七千三百元なり。

二 發電所設備

發電所容量	直流	二七KW	二七KW
デージェル	直流	一一〇V	一臺
發電機	直流	一一〇V	一臺

第四一節 興寧 興光電燈公司

民國四年創立資本金三萬二千四百元瓦斯機關運轉四〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第四二節 陽江 福陽電燈公司

一 沿革

民國六年創立資本金一萬八千元なり。

二 發電所設備

發電所容量	三相交流	六四KW
瓦斯機關	三相交流	六四KW
發電機	三相交流	六四KW
	二二〇〇V	六〇サイクル
	二二〇〇V	六〇サイクル

第四三節 瓊山 啓明電燈公司

資本金十萬元民營にしてデージェル二臺三相交流六〇サイクル、一〇〇KW發電所あるも内容不明なり。

第四四節 文昌 文昌電燈公司

民營電燈公司にして三〇KW發電所を有する由なるも内容不明なり。

第四五節 增城 通明電燈公司

資本金一萬四千元デージェル一臺交流發電機 六〇サイクル三〇KW一臺ある由なるも内容不明なり。

第四六節 實安 實光電燈公司

一 沿革

民營資本金四萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

三三KW

デージェル

一臺

發電機

三相交流

三八〇V

二二〇V

五〇サイクル

三三KW

一臺

第四七節 九江 九江墟電燈公司

一 沿革

民國五年創立資本金四萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

三五KW

瓦斯機關

發電機

三相交流

二二〇〇V

六〇サイクル

三五KW

第四八節 潮陽 光利電燈公司

資本金五萬元の電燈公司ある由なるも内容不明なり。

第四九節 北海 廉北電燈公司

民國四年創立資本金三萬元直流四〇KW二〇〇V汽力發電所ある由なるも内容不明なり。

第五〇節 太郎 太郎電燈公司

瓦斯機關運轉三相交流四〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第五一節 肇慶 日華電燈公司

一 沿革

民國三年創立、資本金五萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量

直流

三五KW

瓦斯機關

一臺

發電機

直流

二二〇V

一臺

第五二節 瓊州 海口電燈公司

民國三年創立、資本金六萬五千元、二〇〇KW汽力發電所ある由なるも内容不明なり。

第五三節 澄海 光華電燈公司

資本金三萬元の公司ある由なるも内容不明なり。

第五四節 香山 石岐電燈公司

民國四年創立、資本金三萬五千元、瓦斯機關運轉、直流八〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第五五節 香山 興業電燈公司

民國七年創立、資本金五萬元、瓦斯機關運轉六〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第五六節 員岡 員岡電燈公司

民國十一年創立、デーゼル發電所ある由なるも内容不明なり。

第三章 休業中供給事業者各説

第一節 番禺 宏光電燈公司

民國九年創立、資本金八萬元、瓦斯機關運轉三相交流七〇KW發電所あるも目下休止中なりと

第二節 南海 利安電燈公司

民國五年創立、民營、資本金六萬二千四百元、六〇KWの設備を有する由なるも目下休業中なり

第三節 順德 梁江電氣公司

民國七年創立、資本金四萬元、瓦斯機關運轉八〇KW發電所あるも休業中なりと、

第四節 臺山 同聲電燈公司

民營電燈公司あるも休業中なり。

第五節 中山 大光電力公司

資本金二萬五千元、デーゼル一臺、直流發電機 一一〇V 二五KW 一臺ある由なるも休業

中なり。

第六節 中山 橫園電燈公司

民營、資本金八萬元の電燈公司あるも目下休業中なりと、

第七節 三水 耀華電燈公司

民營電燈公司あるも休業中なり。

第八節 南雄 光亞電燈公司

民營、資本金五萬元の電燈公司あるも休業中なり。

第九節 英德 愛群電燈公司

民營、資本金二萬元の電燈公司あるも休業中なり。

第一〇節 汕頭 光利電燈公司

民營、資本金四萬八千四百元、三相交流 五〇サイクル 一二五KW發電所を有するも目下休



業中なり。

第一一節 揭陽 普益電燈公司

資本金四萬元、デーゼル一臺、三相交流 九〇KWある由なるも休業中なり。

第一二節 梅縣 光耀電燈公司

民營、資本金六萬二千四百萬元、瓦斯機關二臺、交流發電機九〇KWを有するも目下休業中なり。

第一三節 茂名 高州電燈公司

民營、資本金八萬元、四〇KW發電所を有する電燈公司あるも目下休業中なり。

第一四節 崖縣 崖州電燈公司

民營、資本金七萬元の電燈公司あるも休業中なり。

第一五節 欽縣 開明電燈公司

民營、資本金一萬一千元の電燈公司あるも目下休業中なり

第四章 自家用發電所各説

第一節 廣州 廣九鐵路機車廠

自家用一一九KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第二節 廣州 廣州西村士敏土廠

民國十七年創立、同十九年運轉開始、奧漢鐵道建設工用セメント自給のため、廣東政府が設立せるものにして、資本金四百萬元、資金は廣東中央銀行より借入金なり。

發電所は一、五〇〇KW發電機一臺ある由なるも内容不明なり。

尙民國二十二年増設のため、六十四萬六千二百五十元を投じ、四、〇〇〇KW發電機一臺、汽罐一臺を購入せり。

第三節 廣州 廣州水泥廠

宣統元年の創立にして、資本金百二十萬元の廣東政府經營なり。汽罐五臺、發電機一臺有する由なるも内容不明なり。

第四節 汕頭 潮汕鐵路電燈廠

二〇〇〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第五節 香港 太古糖廠

發電所設備
發電所容量
三相交流
三七五〇KW

發電機	發電所設備	汽罐	不	原動機	種	製	容	廻	臺	据
五				類	類	者	量	數	數	年
				タービン	タービン	BTH	KW	七五〇	三〇〇〇	一九二〇
						BTH		五〇	五	

發電機	發電所設備	汽罐	不	原動機	種	製	容	廻	臺	据
五				類	類	者	量	數	數	年
				タービン	タービン	BTH	KW	七五〇	三〇〇〇	一九二〇
						BTH		五〇	五	

第六節 香港 中華火車糖局

三相交流

一〇〇〇KW

四會	開平	羅定	鬱南	曲江	惠陽	海豐	龍川	潮安	汕頭	梅縣	興寧	陽江	瓊山
振業電燈公司	發明電燈公司	長沙電燈公司	光遠電燈公司	耀羅電燈公司	都城電燈公司	韶州電燈公司	惠東電燈公司	同益電燈公司	龍川電燈公司	昌明電燈公司	光華電燈公司	開明電燈公司	嘉應電燈公司
民國六年	民國六年	民國三年	民國六年	民國六年	民國三年	民國六年	民國六年	民國六年	民國六年	民國六年	民國六年	民國六年	民國六年
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
30,000	50,000	15,000	20,000	25,000	100,000	50,000	40,000	80,000	10,000	27,000	80,000	51,000	100,000
瓦·油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油
交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流
300	500	150	200	250	1000	500	400	800	100	2700	8000	51000	100000
14	18	15	20	25	100	50	40	80	10	270	800	5100	10000
瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏

直交 110000 KW WW

順德	東莞	從化	臺山	中山	新會	三水	清遠	高要
光大電燈公司	光中電燈公司	莞城電燈公司	廣益電燈公司	利太電燈公司	從化電燈公司	公益電燈公司	光昌電燈公司	普照電燈公司
民國二〇年	民國四年	民國五年	民國五年	民國四年	民國四年	民國四年	民國四年	民國四年
同	同	同	同	同	同	同	同	同
40,000	50,000	100,000	60,000	60,000	40,000	50,000	140,000	30,000
汽·油	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦
交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流	交流
2200	2200	2200	2200	2200	2200	2200	2200	2200
9450	1400	1400	1400	1400	1400	1400	1400	1400
瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏	瓏

利華、光華、
會社、光中、
合同

縣名	廠名	設立年	組織	資本金 (元)	原動機 電流	電壓	發電容量 周波數 KW	備考
番禺	宏光電燈公司	民國九年	民營	八〇〇〇	瓦	交流	五〇	
南海	利安電燈公司	民國五年	同	六二〇〇	瓦	交流	五〇	
順德	梁江電氣公司	民國七年	同	四〇〇〇	瓦	交流	五〇	
台山	同聲電燈公司		同	三五〇〇	油	直流	二〇	
中山	大光電燈公司		同	八〇〇〇	油	直流	二〇	
三水	耀華電燈公司		同	八〇〇〇	油	直流	二〇	
南雄	光亞電燈公司		同	五〇〇〇	油	交流	一五	
英德	愛群電燈公司		同	二〇〇〇	油	交流	一五	
汕頭	光利電燈公司		同	四八〇〇	油	交流	一五	
揭陽	普益電燈公司		同	四〇〇〇	油	交流	一五	
梅縣	光耀電燈公司		同	六二〇〇	瓦	交流	一五	
茂名	高州電燈公司		同	八〇〇〇	瓦	交流	一五	
崖縣	崖州電燈公司		同	七〇〇〇	瓦	交流	一五	
欽縣	開明電燈公司		同	一一〇〇〇	瓦	交流	一五	
計				六六二〇〇			五〇	

廣東省休業中電氣供給事業者一覽表

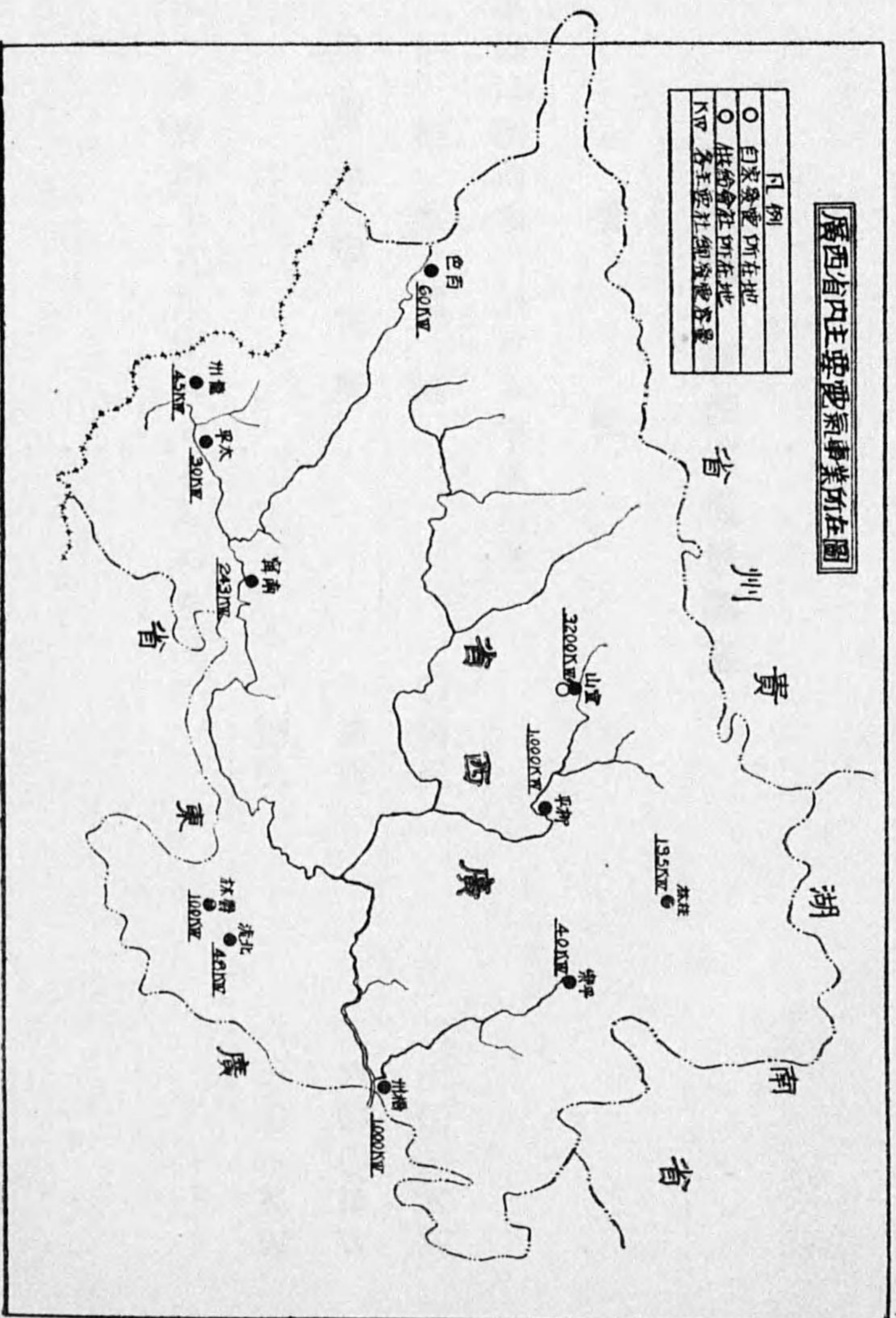
計	中國	外國	員岡	香山	澄海	瓊州	高要	太 郎	北 海	潮 陽	九 江	寶 安	增 城	文 昌
計	五二	三	五五											
廠名	員岡電燈公司	興業電燈公司	石岐電燈公司	光華電燈公司	海口電燈公司	日華電燈公司	太 郎電燈公司	廉北電燈公司	光利電燈公司	九江墟電燈公司	寶光電燈公司	通明電燈公司	文昌電燈公司	
設立年	民國一二年	民國七年	民國四年		同	民國三年		民國四年		民國五年				
組織	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	民營
資本金 (元)	七五九二〇〇	九五〇〇〇〇	一七〇九二〇〇											
原動機 電流		瓦	瓦	瓦	瓦	汽	汽	汽	汽	瓦	油	油	油	
電壓		直	直	直	直	流	流	流	流	同	同	同	同	
發電容量 周波數 KW		六	八	二〇	三〇	三〇	四	四	四	二	三	三	三	
備考										六	三	六	六	

廣西省電氣事業

廣東省自家用發電所一覽表

縣名	廠名	設立年	組織	資本金 (元)	原動機	電流	電壓	容發 量電 KW	容發 量電 KW	備考
廣州	廣九鐵路機車廠		官營					二元		
	廣州西村士敏廠	民國十七年	同	四六〇〇〇〇				五五〇		
	廣州水泥廠	宣統元年	同	一,一〇〇,〇〇〇	汽					
汕頭	潮汕鐵路電燈廠		同					一,〇〇〇		
香港	太古糖廠	光緒二十四年	英國	一〇〇,〇〇〇磅	汽	交流	四〇〇	三,七五〇	五〇	
	中華火車糖局		民營	二,〇〇〇,〇〇〇	汽	同	六,二〇〇	一,〇〇〇	五〇	
新會	江門製紙公司	民國二年	同	二六,〇〇〇	汽			一七		
計	六							一三,五二		

廣西省主要農業事業所在圖





第八編 廣西省電氣事業

梗概

本編は廣西省に於ける電氣事業

供給事業者	一〇箇所	二七〇一KW
自家用發電所	一箇所	三六〇〇KW
計	一一箇所	六三〇一KW

につき資料を蒐集記述せるものなり。

第一章 總 說

事業者數

廣西省に於ける電業事業者は僅か民營八、公營二計一〇にして最近數年間殆ど増減なし其の原因は永年に互る内争のため地方疲弊し産業不振のためなり。
 自家用發電所は此外尙數箇所あるも調査不充分のため不明なり。

年次	供給事業者		自家用發電所		備考
	事業數	發電容量 KW	事業數	發電容量 KW	
民國二十一年	九	一七六	一	三三〇	民國政府調査
民國二十二年	九	一七五	一	三三〇	同
民國二十三年	一〇	二七〇	一	三三〇	當課調査

資本金

民國二十一年度調査によれば全省電氣事業の資本金八十二萬元なりしも本調査によれば投資額九十三萬一千元にして僅か増加せりと雖も尙他省に於ける一事業者の投資額にも及ばざる状態なり尤も一〇事業者中四事業者は投資額不明なり之等を加ふるも恐らく百五十萬元を

出でざるべし。

發電容量

發電容量の民國二十二年に比し著しき増加は柳州電燈廠が今迄八八KWなりしを調査の結果一〇〇KWに訂正せるものにして他に増設等更になし。

發電量

民國二十二年廣西省に於ける發電量は三二九〇、八〇〇KWHにして其の分布を見るに

電燈使用電量	一、六九六、〇〇〇	五一五%
電力同	四〇三、五〇〇	一二二%
自用及損失電量	一、一九一、三〇〇	三六三%
計	三、二九〇、八〇〇	一〇〇%

福建省に比すれば電力使用電量割合少し多きも絶對量甚だ僅少にして問題にならず。

普及率

民國二十二年廣西省に於ける電燈普及率次の如し。

營業區域內總戶數	七二、〇〇〇戶
電 用 戶 數	一〇、五五六戶
普 及 率	一四、九%

第二節 柳州 柳州電燈廠

一 沿革

市營の由なるも創立年資本等不明なり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

一〇〇〇KW

汽 罐

不 明

原 動 機

種 類

タービン

製 作 者

G E

容 量

一〇〇〇

廻 轉

三六〇〇

臺 數

一

發 電 機

種 類

三相交流

製 作 者	電 壓	容 量	周 波 數	廻 轉 數	臺 數	據 付 年 數
G E	二、三〇〇	一〇〇〇	六〇	三〇〇〇	一	一九二九

第三節 平樂 平樂電力公司

民營四〇KWの發電所を有する公司ある由なるも内容不明なり。

第四節 桂林 桂林電燈公司

一 沿革

民國五年創立資本金不明なり。

二 發電所設備

發電所容量

三相交流

一三五KW

デールゼル發電機 三相交流 二二〇〇V 六〇サイクル 一三五KW

第五節 北流 晉光電力公司

資本金五萬七千元、瓦斯機關運轉三相交流 六〇サイクル四八KW發電所ある由なるも内容不明なり。

第六節 鬱林 振華電力公司

一 沿革

資本金六萬五千元の民營公司なり。

二 發電所設備

發電所容量 三相交流 一〇〇KW

瓦斯機關 二臺

發電機 三相交流 六〇サイクル 一〇〇KW

第七節 南寧 南寧電燈公司

一 沿革

民國五年創立資本金十六萬元なり。

二 發電所設備

發電所容量 三相交流 二四三KW

瓦斯機關 四臺

發電機 三相交流 二二〇〇V 六〇サイクル 二四三KW

三 材料 金 民國二十三年九月現在

定額燈 一五W 一二〇

從量燈 一KWH 〇二八

第八節 龍州 龍州電燈公司

四五KW發電所を有する公司ある由なるも内容不明なり。

第九節 百色 日光電燈公司

資本金五萬四千元、瓦斯機關運轉による交流五〇サイクル六〇KW發電所ある由なるも内容不明なり。

因に此外直流發電機ありと。

廣西省電氣事業者一覽表

縣名	廠名	設立年	組織	資本金 (元)	原動機	電流	電壓	發電容量 KW	周波數	備考
梧州	廣西電力廠	光緒三年	公營	五五〇〇	汽	交流	三二五	一〇〇	〇	
柳州	柳州電燈廠		同		汽	同	二二〇	一〇〇	〇	
平樂	平樂電力公司		民營					〇		
桂林	桂林電燈公司	民國五年	同		油	交流	二二〇	一三〇	〇	
北流	晉光電力公司		同	五〇〇〇	汽	同		〇		
鬱林	振華電力公司		同	壹〇〇〇	汽	同	二〇	一〇〇	〇	
南寧	南寧電燈公司		同	一〇〇〇〇	汽	同	二〇	二〇〇	〇	
龍州	龍州電燈公司		同					〇		
百色	日光電燈公司		同	五〇〇〇	汽	交流	二〇	〇		
大平	大平電燈公司		同		汽	同	二二〇	〇		
宜山	宜山煤礦公司	民國五年	同		汽	同	五二五	二二〇	〇	自家用
計	供給者 自家用	一〇	一					二七〇 三二〇〇		

調查課調查資料刊行物目錄

第一輯	北滿鐵道沿線に於ける電氣事業概況	(絶版)
第二輯	滿洲國內電氣企業計畫經過概要	
第三輯	滿洲に於ける自家用發電所	
第四輯	滿洲に於ける電氣事業概説(改訂再版)	
第五輯	ソヴェート聯邦に於ける電氣事業概説	
第六輯	滿洲及中國に於ける輸入電氣用品に關する調査	
第七輯	中華民國に於ける電氣事業(民國二十一年度)	
第八輯	主要電氣會社職制集	(絶版)
第九輯	中華民國電氣事業第一卷(江蘇省浙江省)	
第十輯	同 第二卷(河北省山東省)	
第十一輯	中華民國に於ける電氣事業法規集(第一編)	(第二編)
第十二輯	同 (第二編)	(第三編)
第十三輯	同 (第三編)	(未刊)
第十四輯	最近十箇年間に於ける電氣關係主要文獻目錄	
第十五輯	中華民國に於ける電氣事業(民國二十二年度)	
第十六輯	中華民國電氣事業標準會計科目制度	
第十七輯	滿洲國公司法並電氣事業法規集	
第十八輯	及ウラルクロスネツクイ結合企業	
第十九輯	中華民國電氣事業第三卷(福建省廣東省廣西省)	
第二十輯	同 第四卷(山西省河南省安徽省)	

昭和十年八月二十日印刷
昭和十年八月二十五日發行

滿洲電業股份有限公司大連支社

編輯人兼

出原

佃

大連市東公園町三十一番地

印刷人

吾妻力

松

大連市東公園町三十一番地

印刷所

滿洲日日新聞社印刷所

發行所 滿洲電業株式會社調查課

編者

14.5
415

終